

1. 種の解説

体長 3.4~3.8 mm。体は逆卵形。背面は微細な網状印刻に密に覆われ弱い光沢がある。頭部、前胸背は黄土色。前胸背は前・後縁の中央がしばしば暗色となる。上翅は淡褐~茶褐色で稀に緑色がかかり、基部は濃色でその後方に浅いV字状の淡色の横帯があり、2~3条の不明瞭でやや不規則な点刻列がある。触角、口枝は黄褐色で先端は暗色、肢は黄褐~茶褐色。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州、四国、九州、南西諸島（石垣島、西表島）に分布する。県内では三島市北沢湿地、沼津市西浦足保、磐田市鶴ヶ池・桶ヶ谷沼、浜松市南区松島町、浜松市西区雄踏町で記録がある。

3. 生息環境

低地の池沼、湿地、放棄水田などの止水域に生息する。

4. 生息状況

県内での個体数はもともと少なかったが、最近の記録は少なく、特に西部では確認が困難になっている。

5. 減少の主要因と脅威

県内の既知生息地では、植生遷移の進行や富栄養化に伴う生息環境の悪化（54）、アメリカザリガニによる水生植物群落の破壊（54）などが脅威となる。また、農薬（32）、水質汚染（31）、捕食性外来生物の侵入（52-3）も脅威である。

6. 保護対策

磐田市桶ヶ谷沼は県の自然環境保全地域に指定されている。

7. 特記事項

本州中部以北の個体では黒化が著しく、上翅の斑紋が不明瞭になり体も小型となる。

8. 主な文献

Kamite, Y., N. Hikida & M. Sato (2005) Notes on the *Laccophilus kobensis* species-group (Coleoptera, Dytiscidae) in Japan. *Elytra, Tokyo*, 33(2): 617-628

神奈川県立博物館 編 (1995) 阿部光典ゲンゴロウ類コレクション標本目録. 神奈川県立博物館自然部門資料目録, (8): 1-66

北野 忠・石田和男 (2000) 遠州地方で採集された水生鞘翅目. 遠州の自然, (23): 9-14

北野 忠・記野直人・長谷川 洋・北山 昭 (2000) 静岡県浜松市松島町におけるゲンゴロウ類の採集記録-本州初記録のニセコケンゲンゴロウを中心として-. 甲虫ニュース, (129): 7-9

杉山恵一 編 (1990) 桶ヶ谷沼の自然環境-桶ヶ谷沼自然生態調査及び立地条件調査-. (財)日本野生生物研究センター, 東京, 334 pp.

細田昭博 (2011) ゲンゴロウ類の記録. 遠州の自然, (34): 1-4

森 正人・北山 昭 (2007) 改訂版図説日本のゲンゴロウ (第2刷). 文一総合出版, 東京, 231 pp.

9. 標本

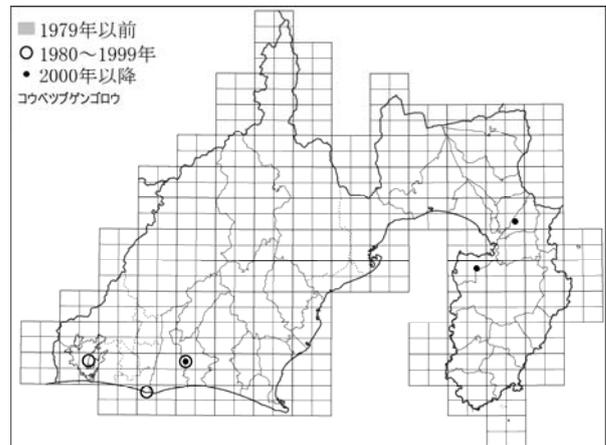
磐田市産：神奈川県立生命の星・地球博物館所蔵

(多比良嘉晃・石川 均)



©2019 Y.Tahira

沼津市産 2004年8月17日 多比良嘉晃採集



1. 種の解説

体長 8.0~10.0 mm。体は長楕円形。弱い金属光沢を帯びた黒褐色。頭部前縁部と頭頂に黄赤褐色の2楕円紋をもち、前胸背の両側は幅広く黄褐色で、前縁・後縁に沿って微細な点刻を装う。上翅は肩部から後方へ徐々に広がる黄褐色の帯紋があり、後半にはその帯紋を2分する暗色条が認められる。帯紋の内側中央と翅端前に黄褐色の小紋があるが、時に帯紋と合する。上翅には不明瞭な4点刻列がある。触角、口枝、肢は黄褐色。

夜間、灯火に飛来することがある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国などに、国内では北海道、本州、四国、九州、南西諸島に分布する。県内では磐田市桶ヶ谷沼と浜松市南区松島町から記録があり、賀茂郡東伊豆町、菊川市西方、浜松市南区白羽町での採集例がある（未発表）。

3. 生息環境

平地から丘陵地の水生植物の豊富な池沼やため池、水田、放棄水田に生息し、ヨシなどが生えている比較的大きな池に生息していることが多い。

4. 生息状況

県内での記録は少なく、詳細な生息状況は不明である。浜松市南区松島町では2000年代初め頃まではきわめて多産していたが、最近は個体数の減少が著しい。

5. 減少の主要因と脅威

県内の既知生息地では、植生遷移の進行や富栄養化に伴う生息環境の悪化（54）、アメリカザリガニによる水生植物群落の破壊（54）などが要因で個体数が減少しているものと思われる。

6. 保護対策

磐田市桶ヶ谷沼は県の自然環境保全地域に指定されている。

7. 特記事項

分布は広いが生息地は局地的である。

8. 主な文献

北野 忠・石田和男（2000）遠州地方で採集された水生鞘翅目．遠州の自然，（23）： 9-14

北野 忠・記野直人・長谷川洋・北山 昭（2000）静岡県浜松市松島町におけるゲンゴロウ類の採集記録-本州初記録のニセコケシゲンゴロウを中心として-．甲虫ニュース，129： 7-9

森 正人・北山 昭（2007）改訂版図説日本のゲンゴロウ（第2刷）．文一総合出版，東京，231 pp.

杉山恵一 編（1990）桶ヶ谷沼の自然環境-桶ヶ谷沼自然生態調査及び立地条件調査-．（財）日本野生生物研究センター，東京，334 pp.

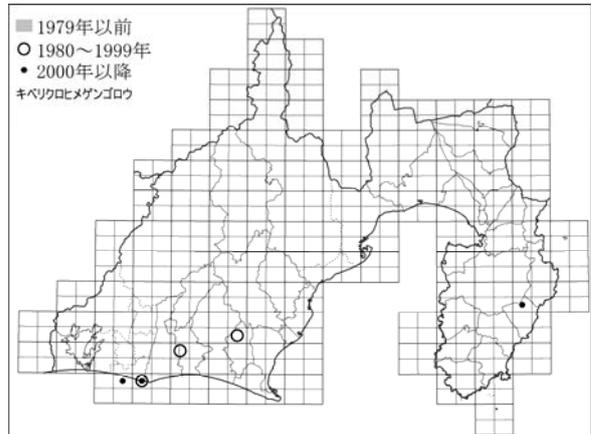
9. 標本

浜松市産ほか：個人所蔵（公的機関の保管不明）

（多比良嘉晃・石川 均）



©2019 H.Ishikawa
浜松市産 2015年10月1日 石川 均採集



1. 種の解説

体長 20~25 mm。黒色で光沢を有し、触角基部、肢の転節及び脛節の一部、腹部第 3・4 腹節両側の小紋などは黄赤褐色。体は卵形で腹背にやや扁平、翅鞘には 3 条のまばらな点刻列を有する。

成虫・幼虫ともに肉食性、8・9 月頃に新成虫が出現し、そのまま成虫越冬、幼虫は 5~8 月に見られる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。国内の分布はやや局地的であるが、生息地での個体数は比較的多いといわれる。県内では賀茂郡南伊豆町、袋井市小笠山、浜松市天竜区青谷、浜松市北区引佐町で記録があり、浜松市北区三ヶ日町での採集例がある（未発表）。

3. 生息環境

水生植物の豊富な池沼、休耕田、水田脇の水溜まりなどに生息する。

4. 生息状況

県内では主に西部から数例の記録があるが、いずれの場所でも個体数は少ないようである。浜松市北区引佐町の 1ヶ所の池ではかなり多産するといいい、同所では最近も複数個体が確認されている。西部以外では賀茂郡南伊豆町で 1 例の記録があるだけである。

5. 減少の主要因と脅威

池沼への農薬などの流入 (32)、植生遷移の進行や富栄養化に伴う水質悪化 (54)、池沼そのものの埋め立てや護岸工事 (12) などによって生息環境が失われている。

6. 保護対策

水生植物の豊富な、自然度の高い池沼を保全する必要がある。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

神奈川県立博物館 編 (1995) 阿部光典ゲンゴロウ類コレクション標本目録. 神奈川県立博物館自然部門資料目録, (8): 1-66

北野 忠 (2000) 静岡県で採集された水生鞘翅目. 神奈川自然保全研究会報告書, 15: 17-24

北野 忠・石田和男 (2000) 遠州地方で確認された水生鞘翅目. 遠州の自然, 23: 9-14

松井正道・松井正文 (1996) 静岡県からのゲンゴロウ類 2 種の記録. 月刊むし, (307): 38-39

森 正人・北山 昭 (2002) 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 文一総合出版, 東京, 231 pp.

静岡県 (1994) 中遠・東遠広域都市計画 小笠山総合運動公園環境影響評価書.

油井雅樹 (1995) 静岡県におけるゲンゴロウの記録. 月刊むし, (298): 14-15

油井雅樹 (1997) 静岡県西部及び伊豆地方における水生昆虫の記録. 駿河の昆虫, (179): 5021-5023

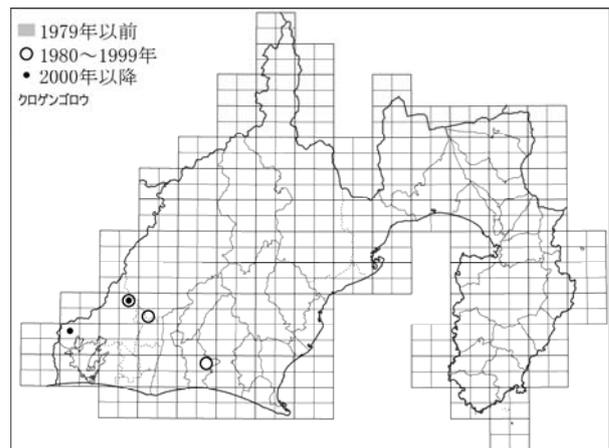
9. 標本

南伊豆町産: 神奈川県立生命の星・地球博物館所蔵



©2019 Y.Tahira

浜松市北区産 1998年5月12日 多比良嘉晃採集



(多比良嘉晃)

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a) 変更なし

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

体長 33~40 mm。長楕円形で背面は凸隆し、腹面はおおむね平坦、黒色で触角及び口枝などは多少とも赤褐色、背面は滑沢だが頭・胸部腹面には濃黄褐色の微毛をピロード状に密生する。肢は比較的細く、中・後肢跗節内縁に褐色の遊泳毛を具える。

成虫は雑食性で、水草や水中の腐食した陸上植物を好んで食し、魚や昆虫などの死骸も食べる。幼虫は肉食性で、モノアラガイなどの淡水性巻貝を好んで食する。成虫は夜間、灯火に飛来することがある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国に、国内では北海道、本州、四国、九州、南西諸島に分布する。県内では伊豆半島、賀茂郡南伊豆町一色、御殿場市仁杉・二枚橋、三島市平成台、磐田郡竜洋町（現磐田市）、浜松市天竜区二俣町、浜松市浜北区、浜松市浜北区堀谷・四大地、浜松市北区引佐町東久留女木・霧山・四方浄・的場で記録があり、御殿場市山之尻・柴怒田、富士宮市下稲子などで採集例がある（未発表）。

3. 生息環境

平地からやや山地の水生植物の豊富な池沼、水田や水田脇の水溜まりなどに生息する。

4. 生息状況

県内では伊豆、東部、西部から記録されており、東部の御殿場市では直近の調査でも複数個体が確認された。西部では近年でも複数ヶ所の生息地が確認されているが、個体数は多くない。

5. 減少の主要因と脅威

農薬・肥料などによる水質汚染（32）、開発に伴う池沼の埋め立て（12）による生息環境の減少などが考えられる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

アメリカザリガニが生息する水域では繁殖しないという

8. 主な文献

加須屋 真（1992）三島市でガムシを採集．駿河の昆虫，（160）： 4555

北野 忠（2000）静岡県で採集された水生鞘翅目．神奈川県自然保全研究会報告書，（15）： 17-24

北野 忠・石田和男（2000）遠州地方で確認された水生鞘翅目．遠州の自然，（23）： 9-14

酒井孝明（2017）南伊豆町におけるガムシの記録．駿河の昆虫，（260）： 7123

高林勝彦（1992）浜北市でガムシを見つける．遠州の自然，（15）： 59

坪井俊久（1977）天竜市二俣町の甲虫類（Ⅱ）．駿河の昆虫，（98）： 2871-2878

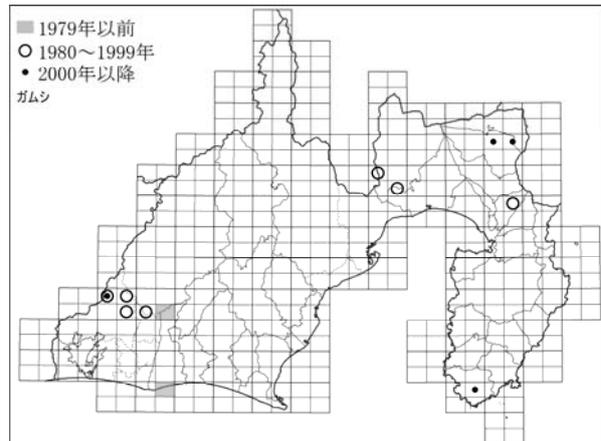
油井雅樹（1997）静岡県西部及び伊豆地方における水生昆虫の記録．駿河の昆虫，（179）： 5021-5023

9. 標本

富士宮市産ほか：個人所蔵（公的機関の保管不明）



©2019 H.Ishikawa
富士宮市産 1990年7月11日 石川 均採集



（多比良嘉晃）

コガムシ *Hydrochara affinis* (Sharp, 1873)

ガムシ科 Hydrophilidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a) 変更コード 1

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 情報不足 (DD)]

1. 種の解説

体長 15～18 mm。触角柄部、口枝は黄褐色、各腹節両側の斑紋、脚は赤褐色。背面は一様に微細な点刻を密布する。各上翅には4条の点刻列とその両側に各1条の細点刻列を有し、外縁近くにも点刻列がある。体下は細毛を密生し、胸板棘状突起は後基節間に終わる。

成虫は草食性で水草を食べるが、繁殖期には動物質も食べる。幼虫は肉食性でヒメモノアラガイなどをよく食べる。メス成虫は水面近くに水草を絡めた卵嚢を作りその中に産卵する。成虫は夜間、よく灯火に飛来する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、極東ロシア、東アジア一帯に、国内では本州、四国、九州分布する。県内では伊豆半島、富士宮市麓、静岡市清水区蒲原町、藤枝市前島、磐田市桶ヶ谷沼、浜松市天竜区二俣町・両島、浜松市浜北区根堅・於呂、浜松市南区松島町、浜松市西区志都呂町などで記録があり、伊豆市湯ヶ島、下田市田牛・箕作、御殿場市山之尻・柴怒田、富士宮市下稲子、焼津市中島、菊川市牛淵・加茂、浜松市南区中田島町、浜松市浜北区竜南などで採集例がある（未発表）。

3. 生息環境

水田や河川敷、海岸後背湿地の水溜まりなど、不安定な浅い止水域で繁殖し、ため池など安定した水域では繁殖しないとされる。

4. 生息状況

県内には広く分布し、個体数も少なくなかったが、近年、減少傾向にある。

5. 減少の主要因と脅威

減少の程度や原因は不明である（99）。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

近似種のエゾコガムシ *Hydrochara libera* (Sharp, 1884) も静岡県に分布しているものと思われるが、未だ確認できていない。

8. 主な文献

北野 忠（2000）静岡県で採集された水生鞘翅目．神奈川自然保全研究会報告書，（15）：17-24

北野 忠・石田和男（2000）遠州地方で確認された水生鞘翅目．遠州の自然，（23）：9-14.

杉山恵一 編（1990）桶ヶ谷沼の自然環境-桶ヶ谷沼自然生態調査及び立地条件調査-．（財）日本野生生物研究センター，東京，pp. 334.

坪井俊久（1977）天竜市二俣町の甲虫類（II）．駿河の昆虫，（98）：2871-2878

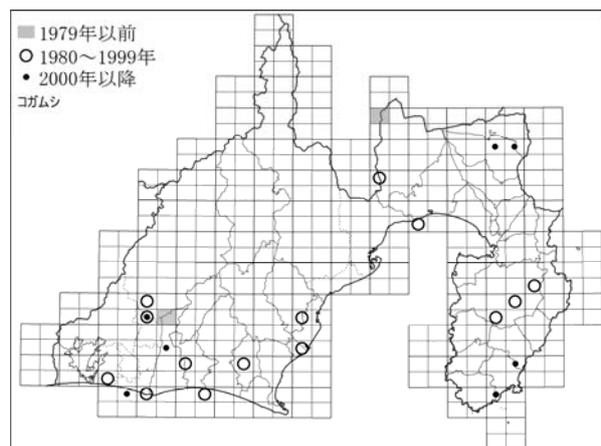
9. 標本

下田市産ほか：個人所蔵（公的機関の保管不明）



©2019 H.Ishikawa

下田市箕作産 2009年6月25日 石川 均採集



（多比良嘉晃・石川 均）

ヒゲコガネ *Polyphylla (Gynexophylla) laticollis* Lewis, 1887

コガネムシ科 Scarabaeidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-ab) 変更コード 9

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

体長 31~38 mm。茶褐色で翅鞘は黄白色鱗片からなる不規則な多数の小斑を装う。体の輪郭はおおむね長円形、触角は 10 節からなり、オスでは端部 7 節が前方へ著しく伸長して片状部を形成、その長さは頭部と前胸部の長さの和に等しい。メスの片状部は 5 節で、オスに比べて著しく小さい。

幼虫は海岸や河川の砂質地の土中にいて、植物の根を食害する。成虫は 6~9 月頃に出現、夜間活動性で昼間は砂の中にもぐって潜み、夕刻から活発に飛翔して周辺の灯火に飛来する。

2. 分布

国外では朝鮮半島から中国大陸にかけて（別亜種）、国内では本州、四国、九州に（基準亜種）分布する。県内では伊豆半島、伊豆の国市古奈、静岡市富沢、榛原郡川根本町奥泉、磐田市桶ヶ谷沼、浜松市天竜区横山・二俣町・渡ヶ島、浜松市浜北区根堅・於呂で記録があり、他に富士宮市沼久保、島田市などで採集例がある（未発表）。

3. 生息環境

幼虫は主に海岸や河川中・下流域の砂質地の土中に生息する。

4. 生息状況

県内では平地~低山地に広く生息しているが、個体数は多くない。近年、灯火に飛来する成虫の個体数が減少している。

5. 減少の主要因と脅威

開発や河川改修、コンクリート護岸、河川敷の公園化など (13) による生息環境の破壊・改変によって生息範囲が狭められている。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

成虫はほとんど後食しないようである。

8. 主な文献

平井克男 (1990) 静岡市富沢のヒゲコガネ. 静岡の甲虫, 8(1/2): 30

加藤 徹・多比良嘉晃 (2005) 里山における甲虫の多様性と調査手法としての各種トラップの特性-静岡県林業技術センターの甲虫-. 静岡県林業技術センター研究報告, (33): 29-71

杉山恵一 編 (1990) 桶ヶ谷沼の自然環境-桶ヶ谷沼自然生態調査及び立地条件調査-. (財) 日本野生生物研究センター, 東京, 334 pp.

坪井俊久 (1977) 天竜市二俣町の甲虫類 (I). 駿河の昆虫, (97): 2852-2859

土屋忠男 (2014) 伊豆地方における甲虫目の記録. 駿河の昆虫, (246): 6755-6761

渡辺一雄 (1982) 遠州地方産昆虫分布資料 (1). 遠州の自然, (5): 21-23

9. 標本

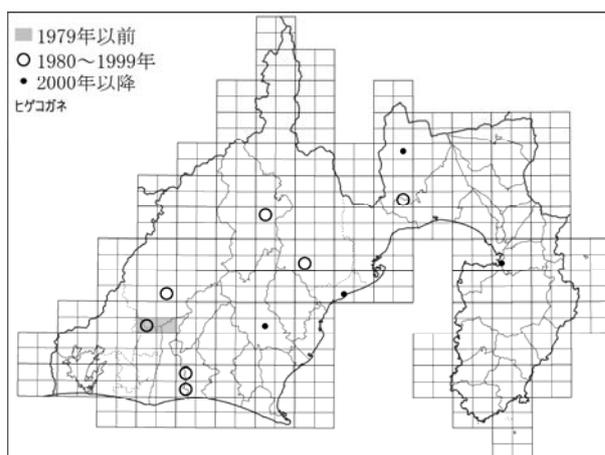
静岡市産ほか: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)

(多比良嘉晃)



©2019 H.Ishikaw

静岡市産 2016年8月10日 石川 均採集



ヤマトオサムシダマシ *Blaps japonensis* Marseul, 1879

ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-b) 変更なし

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

体長 22 mm 内外。体は黒色で、光沢は鈍い。おおむねヒョウタン形で厚みがあり、翅鞘の背面はほぼ平坦、同末端は急に細まって後方へ突出する。触角は細く、先端 4 節はおおむね数珠状で金褐色微毛を密生し、肢は比較的長い。翅鞘は会合部で左右癒合し、飛翔能力を欠く。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国北部に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では富士市千本浜海岸、静岡市清水区由比、磐田市竜洋中島、浜松市天竜区二俣町の記録があり、他に静岡市清水区山切・駿河区小鹿の採集例がある（未発表）。

3. 生息環境

古い木造の民家の床下や納屋の藁くずの下などの主として屋内に生息し、人目に触れる機会は少ない。古い木造家屋を取り壊す際に見つかることがある。また、最近、大河川にかかった橋の下の乾燥環境に生息していることが報告された。

4. 生息状況

県内の採集例は少ないので、詳細な生息状況は不明である。県内でも橋の下の乾燥環境に生息している可能性がある。

5. 減少の主要因と脅威

古い木造家屋はいずれ建て替えられたり、撤去されてしまうので、本種の生息可能な環境は確実に減少している (71)。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

港湾地区に多く、自然の山野では見られないことから、日本から記載された種ではあるが、中国や台湾からの古い時代の移入種とみなす研究者もいる。

8. 主な文献

大庭俊司 (2015) 磐田市竜洋中島の側溝で採集した甲虫 2 種. 駿河の昆虫, (250): 6863

杉山高史 (2004) 千本浜海岸におけるヤマトオサムシダマシの採集記録. 駿河の昆虫, (208): 5800

田形和弘・多比良嘉晃 (1988) 建屋内で捕獲された甲虫類 (I). 静岡の甲虫, 6(1): 21-23

坪井俊久 (1976) ヤマトオサムシダマシの採集例. 月刊むし, (64): 29

坪井俊久 (1977) 天竜市二俣町の甲虫類 (III). 駿河の昆虫, (99): 2893-2902

9. 標本

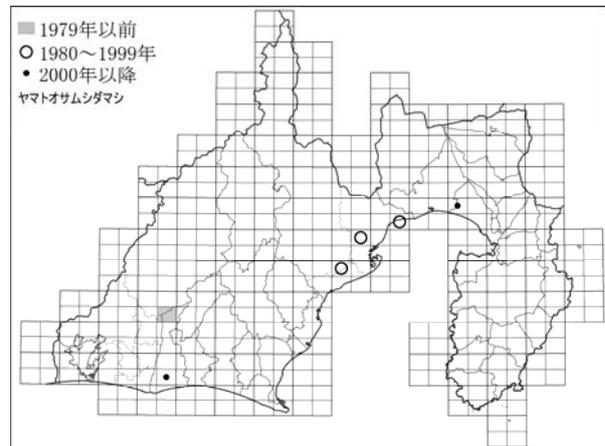
静岡市産ほか: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)

(多比良嘉晃)



©2019 K.Tagata

清水区山切産 1991年11月17日 田形和弘採集



ガガブタネクイハムシ *Donacia (Cyphogaster) lenzi* (Schonfeldt, 1888)

ハムシ科 Chrysomelidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-b) 変更なし

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

体長 6.1~7.3 mm。体は黒色で背面は暗い緑銅~青銅色の金属光沢を帯び、腹面は銀白色の微毛を密生し光沢を欠く。触角第2・3節はほぼ等長、後肢腿節は肥大し下面端方に1鋭棘と2~3小歯を具え、オスの腹部第1節腹面(第3腹節腹板)中央に1対の小隆起を有する。

成虫は6~8月に出現し、ジュンサイやヒルムシロの葉上において葉を食害、幼虫は水中(土中)で同じく根を食害する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、台湾、フィリピンに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では浜松市北区引佐町の2ヶ所のため池で採集例があるが、具体的なデータは未発表である。

3. 生息環境

ジュンサイやヒルムシロなどが生育する池沼に生息する。

4. 生息状況

県内では2ヶ所の池に生息していることが確認されており、生息地での個体数は少ない。県内にはジュンサイやヒルムシロが生えた池が少なく、かつ、十分な調査は行われていない。

5. 減少の主要因と脅威

ため池の埋め立て(12)や管理放棄(53)、農薬・肥料などの流入による水質汚染(32)、植生遷移の進行に伴う水環境の悪化(54)などが本種の生息の脅威となる。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

ガガブタネクイハムシという和名がつけられているが、ガガブタを食害することは疑わしいという。

8. 主な文献

長谷川道明・吉富博之(1998) 愛知県のネクイハムシ類. 豊橋市自然史博物館研究報告, (8): 41-48

林 成多(2005) 日本産ネクイハムシ図鑑-全種の解説-. 月刊むし, (408): 2-18

野尻湖昆虫研究グループ(1985) アトラス・日本のネクイハムシ-化石同定の手引き. 同グループ, 大阪, 182 pp.

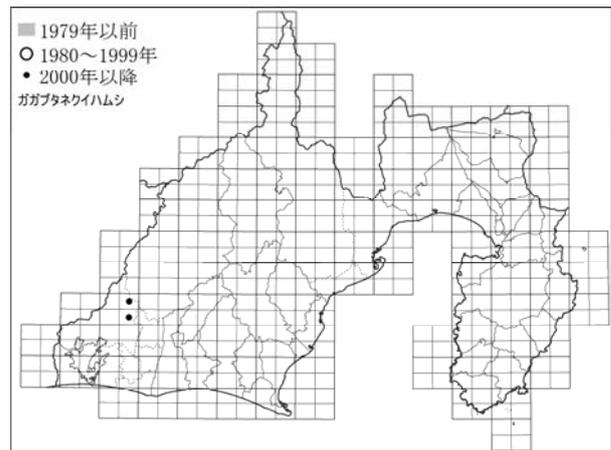
9. 標本

浜松市産: 個人所蔵(公的機関の保管不明)



©2019 Y.Tahira

浜松市北区産 2000年6月26日 多比良嘉晃採集



(多比良嘉晃)

オオルリハムシ *Chrysolina virgata* (Motschulsky, 1860)

ハムシ科 Chrysomelidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-b) 変更なし

[2004 年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

体長 9~14 mm。金緑色で前胸背板中央と上翅会合部両側及び側縁付近の縦条は金赤紫色であるが、変異がある。後胸及び腹部腹面は赤銅色。おおむね長円形で後方はやや広がり、背面は膨隆する。前胸背板は大小の粗点刻を装い、両側は縦に窪み巨大な点刻を不規則に具え、上翅は粗大点刻を多少とも列状に並べる。

成虫は 6~10 月に出現し、シロネ、ヒメシロネなどのシソ科植物上に見られ、成虫・幼虫ともにこれらを摂食する。老熟幼虫で土中で越冬するといわれる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、シベリアに、国内では本州、佐渡、九州（大分県）に分布する。国内における分布は局地的で、本州では太平洋側の静岡県と日本海側の福井県より北の各地と三重県、山口県から、九州では大分県から記録されている。県内では富士宮市朝霧高原で確認されているが、詳細なデータは未発表である。

3. 生息環境

シソ科のシロネ、ヒメシロネ、エゴマなどが生育する湿性草原に生息する。

4. 生息状況

富士宮市朝霧高原では個体数は少なくないようであるが、最近では確認していない。インターネット上では 2010 年と 2017 年に朝霧高原において確認した内容の記事が掲載されている。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移の進行や乾燥化が進むことなどで生息環境が変化し (54)、本種の生息に影響を与える可能性がある。

6. 保護対策

富士宮市朝霧高原の生息地は国立公園内にあって、無秩序な開発などによって生息地が破壊されるおそれは小さいと考えられる。

7. 特記事項

静岡県の個体群は、背面が金緑色で前胸背板と各上翅の中央が金赤紫色、後胸腹板は赤銅色を呈する型である。

8. 主な文献

岩井大輔・八木 剛 (2003) 日本におけるオオルリハムシの地理的分布. *Japanese Journal of Entomology* (N. S.), 6: 105-110

木元新作・滝沢春雄 (1994) 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説. 東海大学出版会, 秦野, 539 pp.

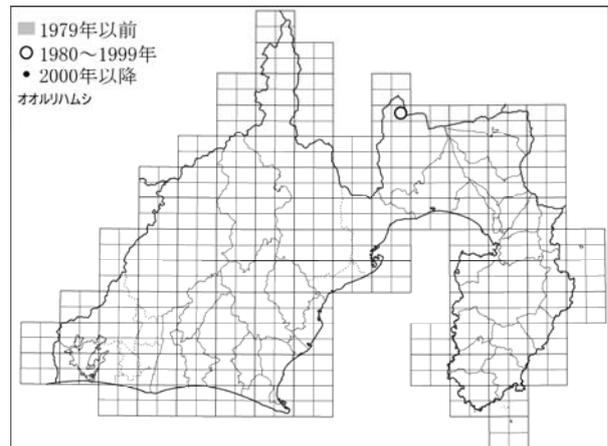
9. 標本

富士宮市産: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)

(多比良嘉晃)



©2019 Y.Tahira
富士宮市産 1994年8月15日 多比良嘉晃採集



1. 種の解説

体長 3.8~4.2 mm。体は黄褐~赤褐色、おおむねダルマ形で背面は強く隆起し、吻は比較的太短いがよく突出、前胸背板は顆粒を装い、翅鞘は粗い点刻を縦列し、肢は頑強で短く、前肢脛節末端の外角は細長く突出し、後肢脛節末端には三日月形の外室を有する。

海岸に打ち上げられたアマモの下や砂中に埋まったアマモに見られ、成虫・幼虫ともにこれらを食する。成虫はほぼ一年中見られるようであるが、5・6月頃に最も個体数が多い。

2. 分布

国外では朝鮮半島と極東ロシアに、国内では北海道、本州、九州の海岸部に局地的に分布する。確認されている生息地は多くなく、基準産地の三重県津市阿僧浦海岸と愛知県南知多町内海海岸ではすでに絶滅したとされる。県内では浜松市南区米津町、浜松市西区篠原町・舞阪町、湖西市新居町・白須賀の記録がある。

3. 生息環境

砂浜が発達した自然海岸の打ち上げられたアマモの下などに生息する。礫浜では、アマモが漂着していても生息は確認されないという。

4. 生息状況

愛知県豊橋市表浜海岸から浜松市南区米津町に至る遠州灘海岸に不連続的に生息し、一部地域では個体数は少ない。浜名湖の奥部では見られない。

5. 減少の主要因と脅威

護岸工事 (14) や海岸への車両の乗り入れ (71) は本種の生存に壊滅的な打撃を与えるおそれがある。また、生活排水などの流入による湖水の汚染 (31) で食草のアマモが減少することも大きな脅威である。

6. 保護対策

愛知県境付近の遠州灘海岸は数少ない自然海岸であるので、現状のままでの保全が必要である。

7. 特記事項

愛知県知多半島と三重県阿僧浦海岸では、最近、約 60 年ぶりに再発見された。

8. 主な文献

- 長谷川道明・蟹江 昇 (1992) 豊橋市表浜海岸の海浜性甲虫類. 豊橋市自然史博物館研究報告, (8): 41-48
 長谷川道明・金 郁彦・大場裕一 (2016) 知多半島で確認されたハマベゾウムシについて. 豊橋市自然史博物館研究報告, (26): 19-21
 松本雅道 (2003) 遠州灘沿岸におけるハマベゾウムシの分布と漂着アマモ量. 漂着物学会誌, 1: 1-5
 多比良嘉晃・松本雅道 (2000) 静岡県における海岸性甲虫相. 環境システム研究, (7): 39-71

9. 標本

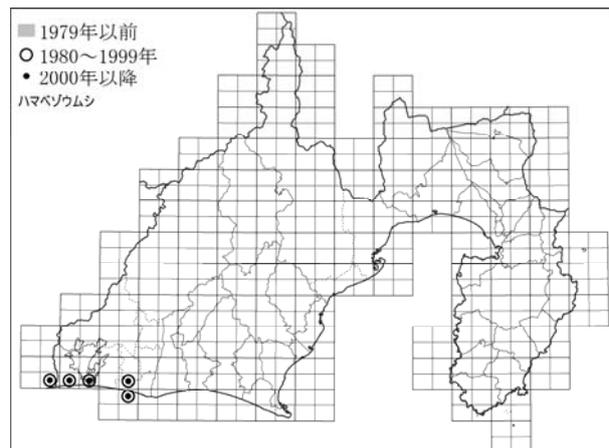
浜松市産: 個人所蔵 (公的機関の保管不明)

(多比良嘉晃)



©2019 H.Ishikawa

浜松市産 2014年7月14日 石川 均採集



ウラクロシジミ *Iratsume orsedice orsedice* (Butler, 1882)

シジミチョウ科 Lycaenidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-ab) 変更コード 1, 3, 6

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

開張およそ 35 mm。オスの表面は一面真珠色、メスは外側が広く黒褐色で内側は灰白色をしている。裏面はオスメスとも地色は明黒褐色で後翅に W 型の白線がある。幼虫の食餌植物はマンサク。卵で越冬。年 1 回標高の低い地域では 6 月、高い地域では 7 月に発生する。夕方活発に飛翔する。

2. 分布

国外では台湾、中国西部に、国内では北海道南部、本州、四国、九州に局地的に分布している。県内では大井川の中・上流部、浜松市（旧引佐町、旧天竜市）から記録が多く、天竜区水窪町や龍山町でも採集されている。富士山周辺や伊豆半島からは記録がない。

3. 生息環境

標高およそ 700～1,400 m の山地の溪谷が主な発生地であるが、浜松市北区から天竜区にまたがる渋川・枯山地区のように低山にも見られる。

4. 生息状況

2000 年代の初めまでは大井川の上流部や引佐町に生息していたが、県内各地で食樹のマンサクが樹病により大量に枯死し、その影響が本種にも及び、最近の 10 年間はおくわずかな記録しかない。

5. 減少の主要因と脅威

県内で食樹のマンサクが樹病により枯死したため (71) 本種の生息に大きく影響している。マンサクの更新は進んでいない。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

天野市郎 (2000) 静岡県中川根町蕎麦粒山でウラクロシジミを採集. 駿河の昆虫, (189): 5310-5311

稲葉 茂 (1986) 静岡市井川湖周辺の蝶覚え書. 駿河の昆虫, (133): 3874

白井和伸 (2001) 1990 年代に引佐町で採集した蝶の記録について. 駿河の昆虫, (193): 5418-5419

諏訪哲夫・稲葉 茂・太田公夫・白井和伸・高橋真弓 (1986) ミドリシジミ類の幼生期における分布調査と飼育結果. 駿河の昆虫, (133): 3860-3861

高橋真弓 (1967) 静岡県とその周辺のみドリシジミ類についての覚え書. 駿河の昆虫, (57): 1561-1608

宇式和輝 (2008) 大井川源流域・二軒小屋地域の蝶 [IV・2006 年] 駿河の昆虫, (224): 6208-6222

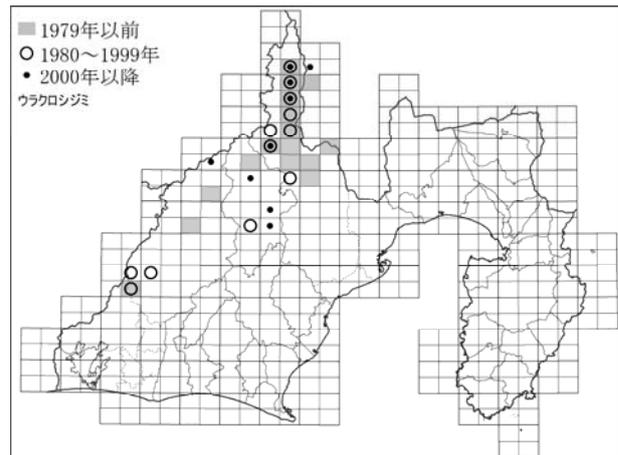
9. 標本

各産地 (多数) : ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵

(白井和伸・諏訪哲夫)



©2019 I.Amano
静岡市産♂裏面 2014年7月24日 天野市郎採集



ウラギンスジヒョウモン *Argyronome laodice japonica* (Ménétrières, 1857)

タテハチョウ科 Nymphalidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-ab) 変更コード 5

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

開張およそ 60 mm、メスはやや大きい。高標高になるにつれ小型になる傾向がある。翅表は明橙色の地色の全面に黒斑が広がる。後翅裏面の中央に銀色斑が筋状に現れ、和名の由来となっている。後翅裏面の外半分は赤紫色を帯びる。食餌植物はスミレ類。幼虫で越冬。年 1 回 6 月に羽化し、盛夏には休眠し秋再び姿を現す。

2. 分布

国外ではサハリン、朝鮮半島、中国からヨーロッパ北部にかけて広く、国内では北海道から九州まで広く分布している。県内では南アルプスやそれに続く山間地をのぞく広い地域から記録がある。

3. 生息環境

草原性種であり、蜜源が豊富な草地に多く、疎林や林縁にも見られる。いわゆる里山の環境は好適な生息地となる。

4. 生息状況

1990年代までは個体数は決して多くないものの、県内に広く生息していたが、2000年以降伊豆、中部、西部において激減している。ただし、東部の富士山麓には今のところ安定して生息している。

5. 減少の主要因と脅威

草地の遷移の進行、さらにシカやイノシシによる草花の食害 (54) により蜜源となるオカトラノオやアザミ類が生育するような良好な草地環境が失われている。

6. 保護対策

里山の環境整備を行うことにより本種の増加につながることを期待したい。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

福井順治 (1977) 佐久間・水窪の蝶類 (Ⅲ) . 駿河の昆虫, (96): 2824-2829

清 邦彦 (2012) 富士山麓の草原における蝶類群集の変化 [第 4 報] . 駿河の昆虫, (237): 6525-6529

白井和伸 (2001) 1990 年代に引佐町で採集した蝶の記録について. 駿河の昆虫, (193): 5418-5419

諏訪哲夫 (2015) 静岡市葵区突先山でウラギンスジヒョウモンを採集. 駿河の昆虫, (252): 6199

高橋真弓 (1987) 静岡県および山梨県南部におけるヒョウモンチョウ類の分布と生息地Ⅱ. 駿河の昆虫, (137): 3959-3987

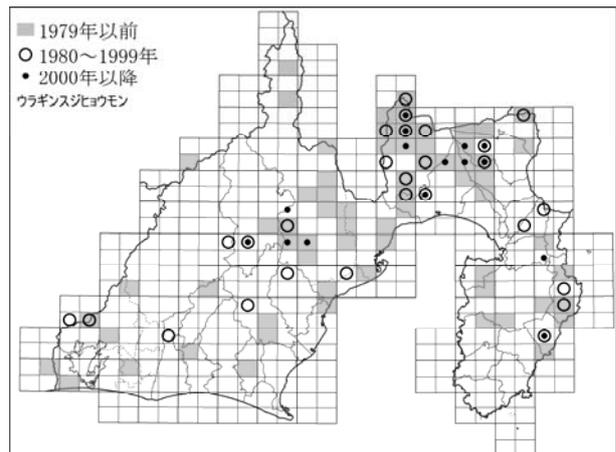
9. 標本

各産地 (多数) : ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵

(白井和伸・諏訪哲夫)



©2019 T.Suwa
静岡市産♂裏面 2015年6月28日 諏訪哲夫採集



クモガタヒョウモン *Nephargynnis anadyomene ella* (Bremer, 1865)

タテハチョウ科 Nymphalidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-ab) 変更コード 5

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

開張およそ 60~75 mm。オスの翅表は明橙色、メスは暗橙色の地色をしている。全面に黒斑が広がり、前翅端が大きくせり出す。後翅裏面が雲形模様をしているため和名の由来となっている。幼虫の食餌植物はスミレ類。卵で越冬。年 1 回、大型ヒョウモン類の中では最も早く 5 月初旬に羽化し、夏の休眠を経て秋再び姿を現す。

2. 分布

国外では朝鮮半島、ロシア南東部、中国東部に、国内では北海道から九州まで分布は広い。県内では伊豆半島を含む全域から記録がある。

3. 生息環境

平野部から標高 1,400 m の山地まで生息している。成虫の蜜源となるオカトラノオ、ノアザミなどの草本が生育する草地や、ウツギなどのある疎林、林床が明るい落葉広葉樹や針葉樹の疎林や林縁などが生育地となる。

4. 生息状況

1990 年代までは生息密度は低いものの県内全域にわたって記録があったが、2000 年以降、目にする機会が一層少なくなった。

5. 減少の主要因と脅威

雑木林などの森林の荒廃や草地の遷移の進行 (54)、さらにシカやイノシシによる草花の食害 (54)、ノアザミなどの吸密植物の減少により好適な生息環境が縮小している。

6. 保護対策

里山の環境整備を行うことにより本種の増加につながることを期待したい。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

袴田和弘 (2016) 静岡県中・西部におけるクモガタヒョウモンの記録. 駿河の昆虫, (256): 7023

清 邦彦 (2016) 富士山麓の草原における蝶類群集の変化 [第 5 報]. 駿河の昆虫, (255): 6977-6983

諏訪哲夫 (2004) 寸又峡の 6 月の蝶. 駿河の昆虫, (207): 5771

高橋真弓 (1987) 静岡県および山梨県南部におけるヒョウモンチョウ類の分布と生息地 II. 駿河の昆虫, (137): 3959-3987

高橋真弓 (2014) 静岡市津渡野におけるクモガタヒョウモンの記録. 駿河の昆虫, (246): 6774-6775

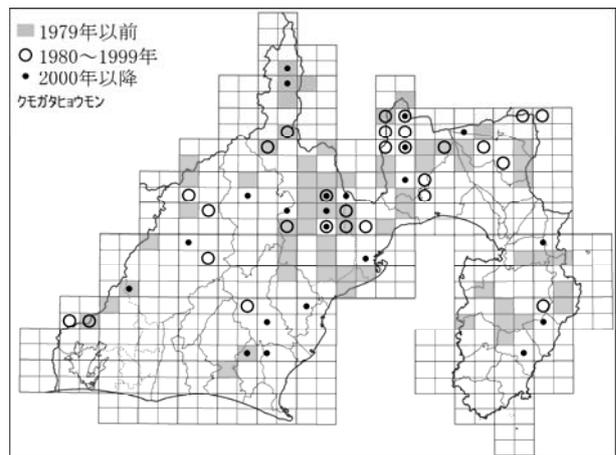
9. 標本

各産地 (多数) : ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵

(白井和伸・諏訪哲夫)



川根本町産♀裏面 2008年7月12日 諏訪哲夫採集



1. 種の解説

開張 50 mm。翅の表は黒、裏は明るい茶色の地色に白い帯と点が並ぶ。幼虫の食餌植物はシモツケとユキヤナギ。幼虫で越冬。成虫は年 1 回、6~7 月に発生し 8 月まで見られる。最近、天竜川中流から、年に 2 回発生していると推測される個体群が見つまっている。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国東北部、台湾などに、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では富士山麓に広く分布し、静岡市梅ヶ島など中部の一部、西部では旧引佐町周辺の蛇紋岩地帯、佐久間ダムなど天竜川沿いに記録がある。

近畿地方や四国では、ユキヤナギなど栽培植物を利用して分布を拡大している。

3. 生息環境

食草のシモツケ類が自生する雑木林の林縁や、灌木を交えた草原が生息地となる。

4. 生息状況

富士山周辺では、草原環境の減少によりやや減少傾向とみられるが、まだ安定して生息しているとみてよい。中部では安倍川上流域に記録があるが最近は見ることができない。一方、西部の旧引佐町を中心とする蛇紋岩地帯の産地では 1990 年代以降記録がなく、絶滅した可能性が高いが、佐久間ダム周辺には現在でも細々と生息している。

5. 減少の主要因と脅威

富士山麓では遷移の進行 (54) により疎林や草原環境が縮小し、個体数は減少傾向である。本県西部から愛知県東部にかけての蛇紋岩地帯では、遷移の進行や新東名高速道路の建設 (24) などにより産地が失われた。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

国内産の地理的変異は大きく、最近の研究でいくつかの亜種に分割されるようになった。本県西部から愛知県東部の蛇紋岩地帯産は原名亜種に含まれると考えられ、前翅中室白帯が縮小し、原名亜種の中では変異が顕著な貴重な個体群であったが、残念ながら十分調査、研究されないまま絶滅したことになる。

8. 主な文献

木村一好 (2016) 浜松市におけるホシミスジの記録 (2015 年) . 駿河の昆虫, (256): 7020

小堀 健 (2015) 富士市岩本山公園周辺のチョウの記録. 駿河の昆虫, (249): 6825-6831

清 邦彦 (2012) 富士山麓の草原における蝶類群集の変化 [第 4 報] . 駿河の昆虫, (237): 6525-6529

白井和伸 (2006) 静岡県西部から愛知県東部の蛇紋岩地帯のホシミスジについて. 駿河の昆虫, 215 : 5959-5966

高橋真弓 (1967) 静岡県とその周辺におけるミスジチョウ属 *Neptis* の分布. 駿河の昆虫, 60: 1667-1714

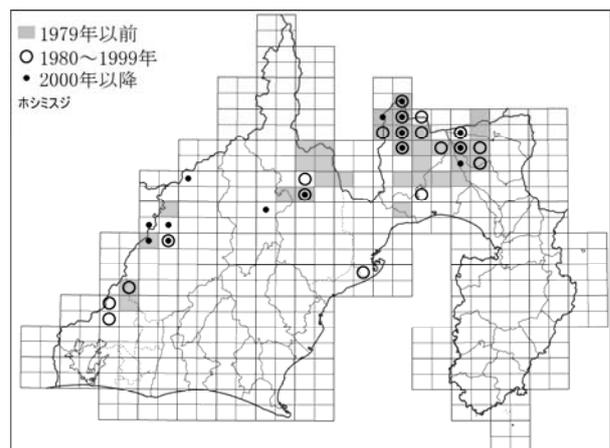
9. 標本

各産地 (多数) : ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵

(白井和伸・諏訪哲夫)



©2019 T.Suwa
浜松市産♂表面 2013年6月9日 諏訪哲夫



ツマジロウラジャノメ *Lasiommata deidamia interrupta* (Fruhstorfer, 1909)

タテハチョウ科 Nymphalidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-b) 変更コード 1,6

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

開張およそ 55 mm。翅の表裏とも黒褐色で裏面後翅に眼状紋が並ぶ。メスでは前翅の白帯が目立つ。幼虫の食餌植物はヒメノガリヤスなどのイネ科。幼虫で越冬。成虫は標高の低いところでは 5 月下旬～6 月、7～8 月、9～10 月の 3 回、標高の高いところでは 7 月下旬～8 月に 1 回発生し、好んで花に集まり、ニガナ、ヒメジョオンなどで吸蜜する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、ロシア南東部、モンゴルなどに、国内では北海道、本州、四国に分布するがいずれの地域でも産地は限られる。隣接の愛知県からは記録がない。県内では伊豆半島には記録がなく、富士山本体ではわずかな記録があるのみである。東部では天子山脈の山麓、中部では安倍川、大井川流域、西部では北遠地方の標高 200～1,600 m から記録がある。

3. 生息環境

岩や石が露出した崩壊地や林道法面など特殊な環境に限って生息している。

4. 生息状況

富士山では 1960 年代まで表口登山道 2 合目の市兵衛沢に数件の記録があるのみで他の場所からは見つからない。富士山ではその後記録がなく絶滅したとみられる。安倍川流域では大河内や梅ヶ島の標高 400 m 以上の県道などの道路法面でも発生し、1990 年代には比較的個体数も多かったが、道路の拡幅や舗装、法面の補修で、岩などが露出した自然状態の部分がなくなり、本種の生息に大きく影響している。大井川の源流部では 2000 年以降個体数はかなり減少しているが、危機的とまではなっていない。

5. 減少の主要因と脅威

道路の改良や法面の補修 (24) で岩などが露出した部分がなくなり、これに伴って本種も生息できなくなった産地が多い。

6. 保護対策

道路法面の補修をする際、本種が生育できるような工法が検討されることが望まれる。

7. 特記事項

特になし。

8. 主な文献

白井和伸 (1984) 水窪町のツマジロウラジャノメについて. 駿河の昆虫, (126): 3673-3674

諏訪哲夫 (1978) 静岡県・山梨県のツマジロウラジャノメ. 駿河の昆虫, (100): 2945-2953

高橋真弓 (1968) 富士火山富士宮口 2 合目付近 (富士宮市) の蝶. 駿河の昆虫, (63): 1821-1822

宇式和輝 (2007) 大井川上流域・二軒小屋地域の蝶 [Ⅲ・2004 年]. 駿河の昆虫, (219): 6067-6080

9. 標本

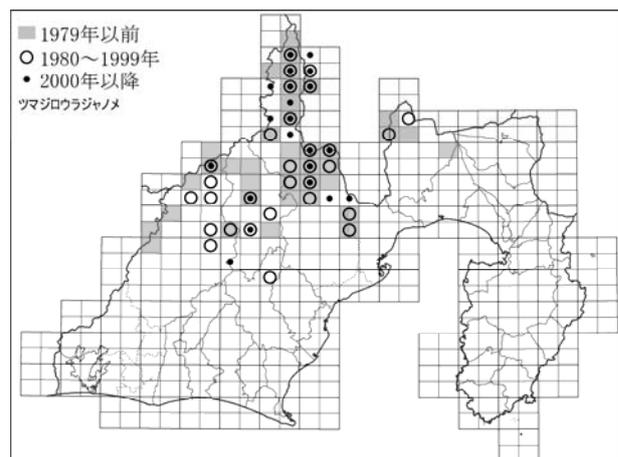
各産地 (多数) : ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵

(諏訪哲夫)



©2019 M.Ikeya

静岡市産♀表面 2016年7月27日 池谷 正採集



ウラジャノメ *Lopinga achine achinoides* (Butler, 1878)

タテハチョウ科 Nymphalidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-ab) 変更コード 1, 6

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-II 分布上注目種等) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

開張およそ 45~50 mm。翅の表は茶褐色、裏は黄褐色、前後翅の表裏とも目玉模様が縦に並び、後翅裏面の目玉模様の内側に白帯がはしる。幼虫の食餌植物はスゲ類。幼虫で越冬。成虫は年 1 回発生し、6 月末~8 月上旬までみられる。

2. 分布

国外ではヨーロッパ中部からユーラシア大陸、朝鮮半島などに広く、国内では北海道、本州中部では広く分布するが、東北、中国地方では遺存的に分布する。県内では富士宮市の天子山脈、静岡市北部、浜松市天竜区から記録がある。

3. 生息環境

標高およそ 1,300~2,000 m の林床が明るく、下草としてイネ科、カヤツリグサ科の草本が豊富に生育している落葉広葉樹や針葉樹の疎林の林内やその林縁などが生息地となる。林床がササ類に覆いつくされているような林には生息しない。

4. 生息状況

富士宮市毛無山は 1970 年代まで記録があるがその後は調査されていない。大井川上流では、古くから記録は多く安定して生息していたが、最近では激減している。中部では山伏、蕎麦粒山、七ツ峰などから、西部では、常光寺山周辺、竜頭山周辺に記録がある。竜頭山周辺では間伐や枝打ちなど遊歩道周辺の整備などにより、広く疎林環境が生じ個体数が増加した。

5. 減少の主要因と脅威

竜頭山周辺とは対称的に、森林がより暗く覆われた状態 (54) となった常光寺山周辺では個体数は激減し、絶滅が心配される。環境整備の重要性が顕著に確認できる好例である。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

竜頭山周辺は本州中部南限の産地であったが、2017 年に愛知県設楽町で発見され、これが南限となった。

8. 主な文献

- 天野市郎 (2006) 静岡市・川根本町境七ツ峰でウラジャノメ. 駿河の昆虫, (216): 5999
- 福井順治 (1977) 佐久間・水窪の蝶類 (III). 駿河の昆虫, (96): 2824-2829
- 白井和伸 (2000) 静岡県西部地方のウラジャノメについて. 駿河の昆虫, (190): 5333-5334
- 諏訪哲夫 (2000) 北遠地方のウラジャノメの記録. 駿河の昆虫, (189): 5012-5013
- 高橋真弓 (1953~2000) 大井川水源地方蝶類分布調査報告 (1)~(23). 駿河の昆虫, 4~135 掲載各号.
- 山下 健 (1991) 寸又峡におけるウラジャノメなどの記録. 駿河の昆虫, (156): 4457

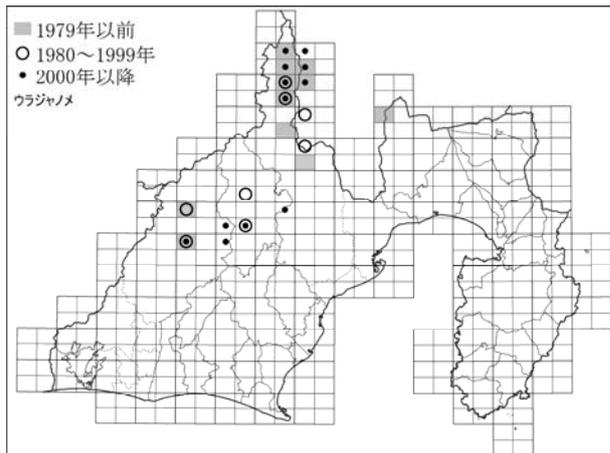
9. 標本

各産地 (多数) : ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵

(白井和伸・諏訪哲夫)



静岡市産の裏面 2014年7月9日 諏訪哲夫採集



1. 種の解説

開張 39 mm 内外。オスの触角は基方約 2/3 は鋸歯状、先端部は歯牙状、メスでは糸状。成虫は 7~8 月に採集されている。飼育下では、イネ、メヒシバを食した例がある。イネ科を広く食草とすると考えられている。

2. 分布

国外では台湾、中国、ヒマラヤ山脈周辺から、スリランカ、タイ、ベトナム、インドネシアに、国内では本州、四国、九州の南岸部に分布し、既知の北限は伊豆半島とされる。県内では裾野市大野原、伊東市大室山、引佐町三岳山から記録がある。

3. 生息環境

既知産地の環境は火山性草原または火入れなどを定期的に行う管理された草原である。

4. 生息状況

引佐町三岳山の記録は 1953 年、伊東市大室山からは 1967 年に確認され 1973 年以降記録がない。裾野市大野原の東富士演習場に隣接する草原で 2009 年に発見され (柳田, 2010)、2012 年までは継続的に確認されている。

5. 減少の主要因と脅威

遷移進行 (54) による生息環境の植生変化。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

環境省 編 (2015) の改訂版レッドデータブックに掲載されるようになった種である。

8. 主な文献

渡辺一雄 (1968) 静岡県西部地方のシャチホコガ類. 蛾類通信, (51): 549-550

井上 寛・前波鉄也 (1968) 伊東市南部の分布上興味のある蛾類 II. 蛾類通信, (53): 578-581

柳田慶浩 (2010) 静岡県東富士にてカバイロシャチホコの発見とマエアカヒトリの記録. 蛾類通信, (257): 176-177

小林秀紀 (2011) シャチホコガ科. 岸田泰則 (編), 日本産蛾類標準図鑑 II, pp. 115-138. 学研教育出版, 東京.

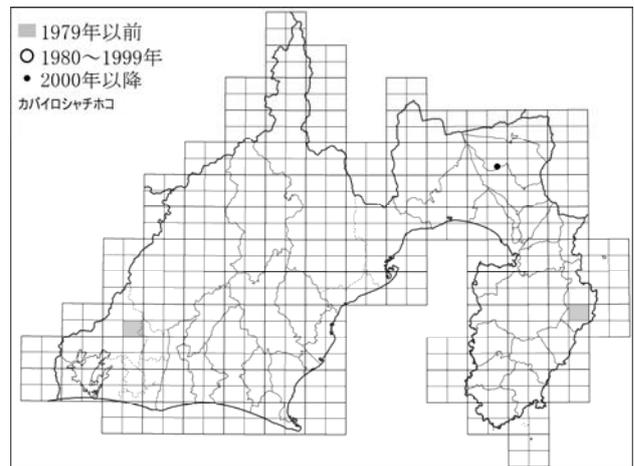
9. 標本

裾野市大野原産: 東京大学総合研究博物館所蔵



©2019 Y.Kishida

裾野市産♀表面 2012年6月7日 岸田泰則採集



(枝恵太郎)

1. 種の解説

開張オス 21 mm 内外、メス 25 mm 内外。メスは無紋であるが、オスは前翅中室外に斑紋をもち、後翅は全体的に黒っぽくなる個体がある。年 2 化、成虫は 5 月、7~8 月に出現する。

2. 分布

国外では中国から記録があるが、別種であろうとされている。国内では本州（伊豆半島以西）、四国、九州、対馬に分布する。県内では伊豆半島（伊東市先原伊豆シャボテン公園・河津町大滝温泉）、裾野市大野原に記録がある。

3. 生息環境

全国の採集された環境から考えると、生息環境はいわゆる草原環境と考えられる。

4. 生息状況

伊豆半島（伊東市先原伊豆シャボテン公園・河津町大滝温泉）において 1960 年代に採集記録があるほか、柳田（2011）により 2010 年 8 月に裾野市大野原で採集されている。

5. 減少の主要因と脅威

遷移の進行（54）や開発（23）など。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

環境省 編（2015）の改訂版レッドデータブックに掲載されるようになった種である。

8. 主な文献

井上 寛・前波鉄也（1967）伊東市南部の分布上興味のある蛾類．蛾類通信，（47）： 467-469

井上 寛・前波鉄也（1968）伊東市南部の分布上興味のある蛾類Ⅱ．蛾類通信，（53）： 578-581

江波戸俊弥（1968）伊豆大滝温泉の 2 種のドクガ．蛾類通信，（52）： 565

岸田泰則（2011）ドクガ科．岸田泰則 編，日本産蛾類標準図鑑Ⅱ，pp. 139-147．学研教育出版，東京．

柳田慶浩（2011）東富士でトラサンドクガの発見とカバイロシャチホコとマエアカヒトリの追加記録．

蛾類通信，261： 282-283

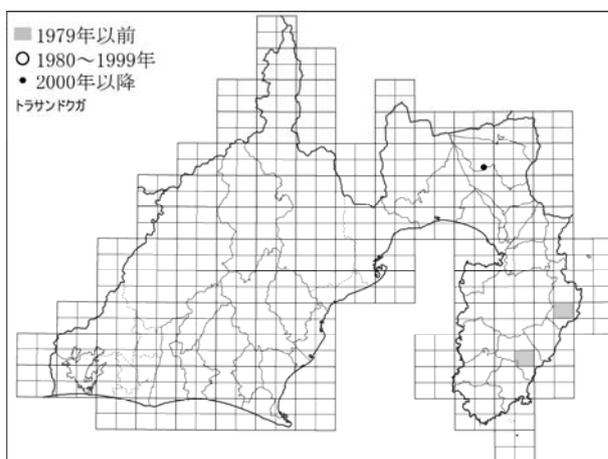
9. 標本

伊東市産：東京大学総合研究博物館所蔵

（枝恵太郎）



伊東市産♂表面 1967年7月31日 前波鉄也採集



静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-b) 変更コード 7

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III 部会注目種) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

開張 50~60 mm 内外。後翅が黒色で黄色い斑のある他の多くのキシタバ類と異なり、後翅は黒色地に白色斑がある。成虫は年 1 化、6 月上旬に出現し、10 月下旬まで見られる。幼虫の食樹はクヌギである。

2. 分布

国外では中国、韓半島、ロシア南東部に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では中部と東部・伊豆（三島市・旧葦山町・旧大仁町）で確認されている。

3. 生息環境

クヌギの混在する暖温帯の落葉広葉樹 2 次林。

4. 生息状況

手元に三島市夏梅木（2002 年 7 月）、伊豆の国市中条（1992 年 7 月）産の標本がある。また 2013 年 7 月に裾野市桃園の記録がある。東部・伊豆のクヌギ 2 次林に生息すると考えられる。

5. 減少の主要因と脅威

遷移の進行 (54) や開発 (23) など。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

環境省 編 (2015) の改訂版レッドデータブックに掲載されるようになった種である。

8. 主な文献

石塚勝己 (2011) ヤガ科シタバガ亜科. 岸田泰則 編, 日本産蛾類標準図鑑 II, pp. 244-249. 学研教育出版, 東京.

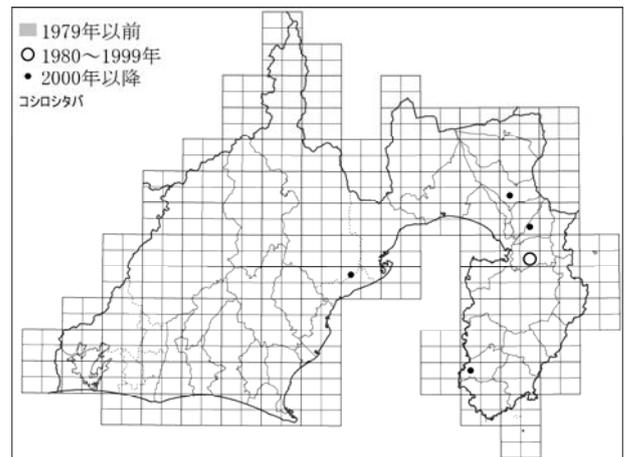
石塚勝己 (2011) 世界の *Catocala*. 月刊むし・昆虫図説シリーズ 1. むし社, 東京, 108 pp.

9. 標本

三島市産：個人所蔵（公的機関の保管不明）



©2019 H.Ishikawa
松崎町産♀表面 2015年8月26日 石川 均採集



(枝恵太郎)

クビグロケンモン *Acrionicta digna* (Butler, 1881)

ヤガ科 Noctuidae

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-b) 変更コード 7

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

開張 43 mm 内外。年 2 化と思われ、4~5 月に出現する成虫は翅表が淡色で斑紋は鮮明で後翅内半部は白色に近い。8 月に出現する成虫は前翅が暗色、後翅内半は淡黄色を帯び、外縁の黒色帯はメスでは特に暗色となる。幼虫はカキツバタで発生記録があるほか、イタドリで幼虫がえられた記録がある。

2. 分布

国外では台湾、朝鮮半島、中国（黒龍江省、河南省、湖北省、湖南省）、ロシア南東部に、国内では産出は局地的で北海道、本州、四国、九州、対馬に分布する。県内では賀茂郡河津町大滝温泉、伊東市先原、富士宮市根原（朝霧高原）、浜北市天竜川沿い、浜松市（旧浜名郡雄踏町）、磐田市桶ヶ谷沼で記録がある。

3. 生息環境

草地及び湿地。これらの環境は、開発、遷移などで減少している。

4. 生息状況

手元に富士宮市小田貫湿原産の標本（1992 年 7 月）があるほか、磐田市桶ヶ谷沼では 1986 年、1999 年の記録が、また最近では富士宮市根原朝霧高原（2016 年 8 月）の記録もある。

5. 減少の主要因と脅威

富士宮市根原（朝霧高原）では生息環境の耕作地化（16）で、生息環境が減少している。

6. 保護対策

特になし。

7. 特記事項

環境省 編（2015）の改訂版レッドデータブックに掲載されるようになった種である。

8. 主な文献

井上 寛・前波鉄也（1967）伊東市南部の分布上興味のある蛾類。蛾類通信，（47）： 467-469

浦山幸夫（1988）磐田市桶ヶ谷沼の蛾。駿河の昆虫，（142）： 4083-4088

岸田泰則（1989）静岡県朝霧高原で得た分布上興味ある蛾。月刊むし，（224）： 27

枝恵太郎・柳田慶浩（2011）ヤガ科ケンモンヤガ亜科。岸田泰則 編，日本産蛾類標準図鑑 II，pp. 295-303. 学研教育出版，東京。

9. 標本

富士宮市産：東京大学総合研究博物館所蔵

（枝恵太郎）



富士宮市み上面 2016年8月20日 飯森政宏

